

第4期 大東市地域福祉活動計画 改訂版

計画の期間

令和6年度(2024年度) ▶▶▶ 令和11年度(2029年度)

概要版

基本理念

地域共生社会の実現に向けて、人と人、人と社会がつながり支え合う環境づくり、分野を超えてつながり地域課題を解決する地域づくりなどの取り組みが進められています。

この計画は、

- ①第3期大東市地域福祉活動計画で進めてきた「結いの福祉文化が花咲くまち」の理念
- ②第4期大東市地域福祉計画に掲げられた「みんなで支える 笑顔あふれる 地域共生社会」の理念
- ③国連の「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」を目指すSDGs※(持続可能な開発目標)の理念

上記3つの理念とともに、社会の変化に対応した新たな視点をふまえ、多様な人・方法による「つながり」を具現化していくにあたり、下記を基本理念とします。

※SDGsとは「エスディー・ジーズ」と読む。Sustainable Development Goalsの略称。



共感
つながり
ひろがる

地域共生社会の実現

社会福祉法人 大東市社会福祉協議会
令和6(2024)年



活動目標

基本理念を受けて、この6年間では、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合い、自分らしく活躍できる地域共生社会の実現に向けて、“**認め合い、支え合い、寄り添う地域の基盤づくりを進める**”ことを活動目標とします。

一人ひとりが自分のできることにに関わり、愛（i）をつないで広がっていく姿をめざして、活動を進めていく上でのスローガンを次の通り掲げ、3つの「取り組みの柱」を設定します。「取り組みの柱」である、人・組織・社協の3つのつながりづくりは、互いに連関してより豊かな取り組みとなるよう進め、大東の木を3つの円環で大きく育てていくことをめざします。

愛がいっぱい

Tsunagarii プロジェクト



- 個性を活かした活動ができる仕組みづくりなど、人と人とのつながりが広がる取り組みを進めます。

- 専門分野をこえ、組織間が連携し、課題解決にあたるネットワークづくりを進めます。

- 人のつながり、組織のつながりづくりにおいて、社会福祉協議会が「旗振り役」「つなぎ役」となる取り組みを進めます。

Tsunagarii づくりを進める主な主体



※安心・いきいきネット相談支援センター

…CSW（コミュニティソーシャルワーカー）が配置され、地域の身近な相談窓口として、対象者や相談内容を限定せず、困りごとの相談に応じている。

※障害者相談支援事業所

…障害のある方やご家族からの相談に応じ、日常生活や社会生活が安心しておくることができるよう、総合的・継続的な支援を行っている。

※子育て世代包括支援センター「ネウボランドだいとう」

…妊娠が分かった時から、子どもが18歳になるまでの、子育てに関する情報提供窓口を一本化することで、子育て家庭を適切な機関につなぎ、必要なアドバイスを行うなど、スムーズで切れ目のない相談支援を行っている。

※地域包括支援センター

…高齢者の総合相談および、地域のみなさんに健康でイキイキと長生きしていただくための介護予防事業に取り組んでいる。

※暮らしサポート大東

…生活困窮者および生活保護受給者を対象に相談から就職に至るまでの一貫した就労支援を行うため、専門的就労支援員を配置し、一人ひとりの状況に応じた就労支援を行っている。

※地域貢献委員会

…市内の社会福祉法人と社会医療法人で構成し、それぞれの法人の強みを生かし、地域住民の暮らしを支える活動に取り組んでいる。

活動計画

これからの取り組みを進めていくにあたって

活動目標「“認め合い、支え合い、寄り添う地域の基盤づくりを進める”」の実体化に向けて、様々な分野を切り口にした機会づくり、つながりや参加の支援、居場所づくりなど複合的な課題解決の核となる「RiBBON」プロジェクトをスタートしました。プロジェクトの基幹となる1つめの拠点をオープンし、誰もが気軽に立ち寄れる居場所をめざして様々な取り組みを進めています。既存の事業に加えて、人・組織のゆるやかなつながりづくりが実践できている「RiBBON」の取り組みを核として、具体的なアクションを展開します。



参加のきっかけづくり

様々な分野を切り口にした機会づくり

これまで関わりのなかった層の参加促進

つながりや参加の支援

活躍の場づくり

居場所づくり

孤立防止

人材育成

※MUSUBI♡サポーター募集とは
…RiBBONのイベント企画や手伝い、開所時の常駐スタッフなどのボランティアへの参加募集





子どもから大人まで、誰もが福祉を自分のこととして身近に考える学びの「土台づくり」を進め、学校など関係機関との連携により学び合う福祉共育を実践します。また、RIBBONを通じて、誰もが個性を活かし気軽に活動へ参加できるよう、参加支援の取り組みを進めます

ホップ 出会う

共に学び、共に育つ、福祉共育のススメ

子どもから大人まで、誰もが福祉を自分ごととして身近に考えられる学びの機会をつくり、互いに共感し合える地域の土台づくりに取り組みます。

- RIBBON における子どもから大人まで一緒に学べる機会の創出
 - ・ SDGs に関する取り組みや福祉に関する体験など、学びの場の実践
 - ・ 人権意識の醸成や、ダイバーシティ※社会の推進を目指す学びの場の実践
- 企業や飲食店との連携による福祉体験の取り組み
- 学校との協働による継続的な学びの場づくり

※ダイバーシティとは

…人としての多様な外見上の違いや内面的な違いに関わりなく、認め合い、受け入れ、共に生きること

ステップ 育む

出番をつくる!! 学び合う協働のススメ

当事者や地域で活動する人、子どもなど、あらゆる人が個性を活かせる出番をつくり、相互に学び合う取り組みを進めます。

- RIBBON における参加支援の取り組み
 - ・ ひきこもりの当事者や障害のある人、子どもや高齢者など、誰もが自分の個性を発揮し気軽に参加できる仕組みづくり、相互理解の育み
- 校区（地区）福祉委員会など、他地域の活動者との交流による学び合いの実践



ジャンプ 認め合う

いざ実践!! 誰もが参加できる取り組みのススメ

福祉共育や参加支援の取り組みとともに、次世代育成や活動の参加へとつなぐ実践を進めます。

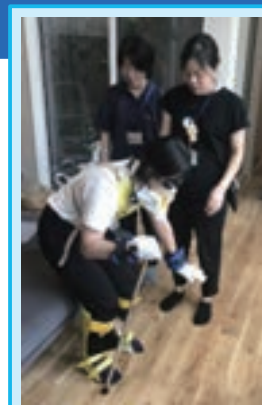
- RIBBON の MUSUBI サポーターなど、誰でも気軽に活動できるシステムづくり
- 次世代リーダー育成プログラムの実践
 - ・ 子どもから大人までが自然と交流する機会を通じて次世代のリーダーを育成
- 活動のコーディネート
 - ・ 年代や分野を問わず、個性を発揮し気軽に参加できる活動をコーディネート

人と人のつながりが広がる主な取り組みとして以下の事業をこれからも実施します。

企業との連携による福祉体験

本会の特別賛助会員でもある富田建設株式会社主催のイベント「WA+SEN」へ協力し、福祉体験に取り組んでいます。

視界の悪さ、重く自由のきかない体など、高齢者の生活を疑似体験することができるキットを使い、福祉体験の取り組みを行っています。

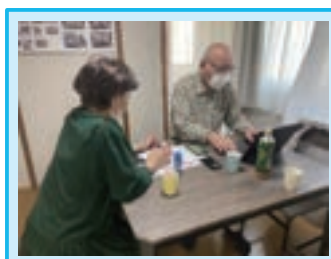


福祉体験

RIBBON における学び合いや参加支援の取り組み

RIBBON ではイベントなどを通じて子どもから大人まで一緒に学べる機会をつくり、SDGs に関する取り組みや福祉に関する体験などを通して、互いに共感し合える地域の土台づくりを実践しています。

また、無料のIT相談室の開催や、居場所として開放し、誰もが気軽に立ち寄り、参加できる仕組みをつくっています。



IT無料相談



段ボールコンポストづくり

住民・地域の do

- ♥ 地域や福祉のことにできるだけ関心を持ちましょう。
- ♥ 学校や地域における福祉共育に参加し、学んだことを地域活動に活かしましょう。
- ♥ 学び合いの場に積極的に参加し、交流しましょう。
- ♥ 住んでいる地域の校区（地区）福祉委員会の活動に参加しましょう。
- ♥ ボランティアなど「やってみたい」の気持ちを大切に、できることから始めてみましょう。ボランティアセンターを活用しましょう。
- ♥ 地域であいさつ、声かけ、見守り・支え合い活動など、顔見知りの関係づくりを大切にしましょう。
- ♥ 地域の居場所・集いの場、そして RIBBON に気軽にでかけましょう。



悩みを共感できる場づくりをすすめ、分野や垣根を越えて、課題解決の効果が波及し将来的な課題発生にも対応できる仕組みや人・地域のネットワークの構築など、「新たな価値」を創造します。継続的にスマホ・タブレット教室を実施し、組織運営能力の効率化や向上を図るとともに、各団体の活動内容をお互いに知ることのできる場をつくります。そして困りごとをみんなで解決できる地域共生のフィールドづくりに取り組みます。

ホップ 分かちあう

一緒に話し合おうの場づくり

各団体の悩みや課題を一緒に話し合い、アイデアを出し合うテーマ型の場づくりに取り組みます。

- 交流会の開催
 - ・ 困りごとを自由に話し合える「困りごと発散カフェ」の定期開催
 - ・ つながりたい団体同士がつながれる交流会の開催
- スマホ・タブレットの活用促進
 - ・ 継続的なスマホ・タブレット教室の開催
 - ・ RIBBONにおけるIT相談の実施



ステップ つなげる

「強みを知る！発信の場づくり」

連携の可能性を探るため、それぞれの強みを発信する仕組みづくりに取り組みます。

- SNSを活用した発信
 - ・ 団体情報を誰でも見ることのできる仕組みづくり
 - ・ 「お茶のみ休憩所」などの通いの場の動画配信
- イベント等を活用した発信
 - ・ 当事者団体等の強みを生かせる〇〇イベントの開催 など

ジャンプ 支え合う

“ごちゃまぜで課題解決！”のフィールドづくり

タテ・ヨコ・ナナメの協働を進め、団体の困りごとや地域課題などをみんなで解決できる地域共生のフィールドづくりに取り組みます。

- 強みを生かしあえるWIN-WINの関係づくり
 - ・ 交流会や団体情報を誰でも見ることのできる仕組みの活用促進
- 補強・補完からソーシャルアクション※へ
 - ・ 得意を活かした、タテ・ヨコ・ナナメの事業活動づくり
 - ・ 相互作用による高め合い、横断的なチームによる困りごとの解決

※ソーシャルアクションとは

・ 社会福祉制度の創設や制度運営の改善を目指し、世論に働きかける活動。現場での支援や活動を通じて、さまざまな方に共通する問題や課題を発見し、可視化し、社会に問題提起を行うこと

組織のつながりが広がる主な取り組みとして以下の事業をこれからも実施します。

企業等との連携（食品ロスの削減）

地域活動の拠点「RiBBON」で実施しているフードバンクの取り組みは、企業やC S W等の協力により市内全域に広がりを見せています。

回収ボックスの設置協力先

- ・市内ファミリーマート 4 か所
- ・川村義肢（株）
- ・（公社）大東市シルバー人材センター

回収ボックス

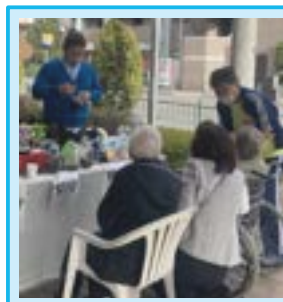


大東市地域貢献委員会による社会貢献活動

法人の強みを活かし、地域住民の暮らしを支える活動を行っています。地域住民の居場所づくりや、困りごとの相談を必要な機関につなげる体制づくりを進めました。



福祉避難所開設に向けた訓練
（ベッド、居室の設置）



南郷の里×コーヒーフェスティバル

大東市地域貢献委員会として、「大災害を乗り越えるための知識と行動」について学んでいます。

大東市と災害時における「福祉避難所協力施設確保等に向けた包括協定」を締結しました。大規模災害が発生した際、市担当部局より一般避難所で過ごすことが困難と判断された高齢者、障がい者等の受け入れを行います。

住民・地域の do

- ♥ 活動について積極的に情報発信しましょう。
- ♥ RiBBON の IT 相談などを活用し、活動の情報発信や運営の効率化に、スマホやタブレットなども利用しましょう。
- ♥ 地域福祉に関する活動を行う団体同士の交流に参加するなど、悩みや課題を共有し、必要に応じて連携しましょう。
- ♥ それぞれの強みを活かして、地域課題の解決に向けて協働しましょう。



地域課題の把握や解決に必要な事務局の機能強化を図り、地域住民から寄せられる多様な地域生活課題を受け止め、地域を基盤にして解決につなげる支援やその仕組みづくりを行います。人のつながりづくり、組織のつながりづくりの推進と相乗し、地域の多様な機関との連携をコーディネートし、課題解決を図る機能の充実に取り組みます。

ホップ 高める

事務局機能の強化

地域課題の把握・解決に必要な、社協や校区（地区）福祉委員会等の事務局機能の強化を図ります。

- 情報集約・分析、助言機能の強化
 - ・ 地区組織との情報交換
 - ・ ICTの導入、活用のための研修会の実施
 - ・ 情報共有ルートの開発、活用
 - ・ 動画での情報配信
- ファシリテーション力の向上
 - ・ 組織内の人材育成の推進



ステップ 広げる

見える化プロジェクトの推進

地域資源や取り組むべき課題について、わかりやすく伝え、活動への幅広い層の参加につながるよう、広報の強化に取り組みます。

- 多様な方法による広報
 - ・ 幅広い層が活用する各種情報とあわせて社協の情報を発信（例：各分野における地域資源マップ等の社会資源情報を集約し、社協の情報とともに発信など）
 - ・ 各イベント等での取り組み広報 など
- 募金機能の強化
 - ・ 募金の活用についてわかりやすく広報するなど、募金への協力促進

ジャンプ 寄り添う

調整機能の強化と事業創出

地域や専門職等から把握する情報を、各団体・専門機関や行政との連携に活かし、包括的な支援につなげる調整機能の強化を図ります。

- コーディネート（調整窓口）機能の充実
 - ・ ネットワークの強化及びコーディネート力の向上
- 必要に応じた事業創出
 - ・ 支援につなげる中で必要に応じて新たな事業の創出

社協とのつながりが広がる主な取り組みとして以下の事業をこれからも実施します。

「出前講座」を通し福祉情報をお届け

福祉活動・ボランティア活動に関心を持っていただけるよう、災害時の対応や日々の暮らしに関する出前講座を実施しています。社協職員の顔を地域みなさんに知っていただくこともねらいとしています。



中学校での車いす体験

福祉の人材育成

インターンシップや実習生を受け入れ、未来の福祉の担い手を育成しています。



福祉委員会のサロンで地域の方からコースター作りを学ぶ学生

社協の総合力を活かした各種相談の窓口

生活困窮者支援

○生活困窮者自立支援法に基づく「生活困窮者自立相談支援事業」を市から受託し、生活に困窮している方を対象に、自立相談・資金貸付・住居確保給付金・就労支援等を行っています。

連携による地域ケア

- 大東市は、住民の困りごとに関する相談を行う専門職として、「安心・いきいきネット相談支援センター」にコミュニティソーシャルワーカーを配置しています。社協では泉小学校・住道南小学校・灰塚小学校エリアを受託し、他機関や民生委員児童委員・校区（地区）福祉委員のみなさんと連携した地域ケアを行っています。
- 地域活動の拠点「RIBBON」では、気軽に相談ができる場として、担当CSWが出張相談を実施しています。



CSWによるフードバンクの取り組み

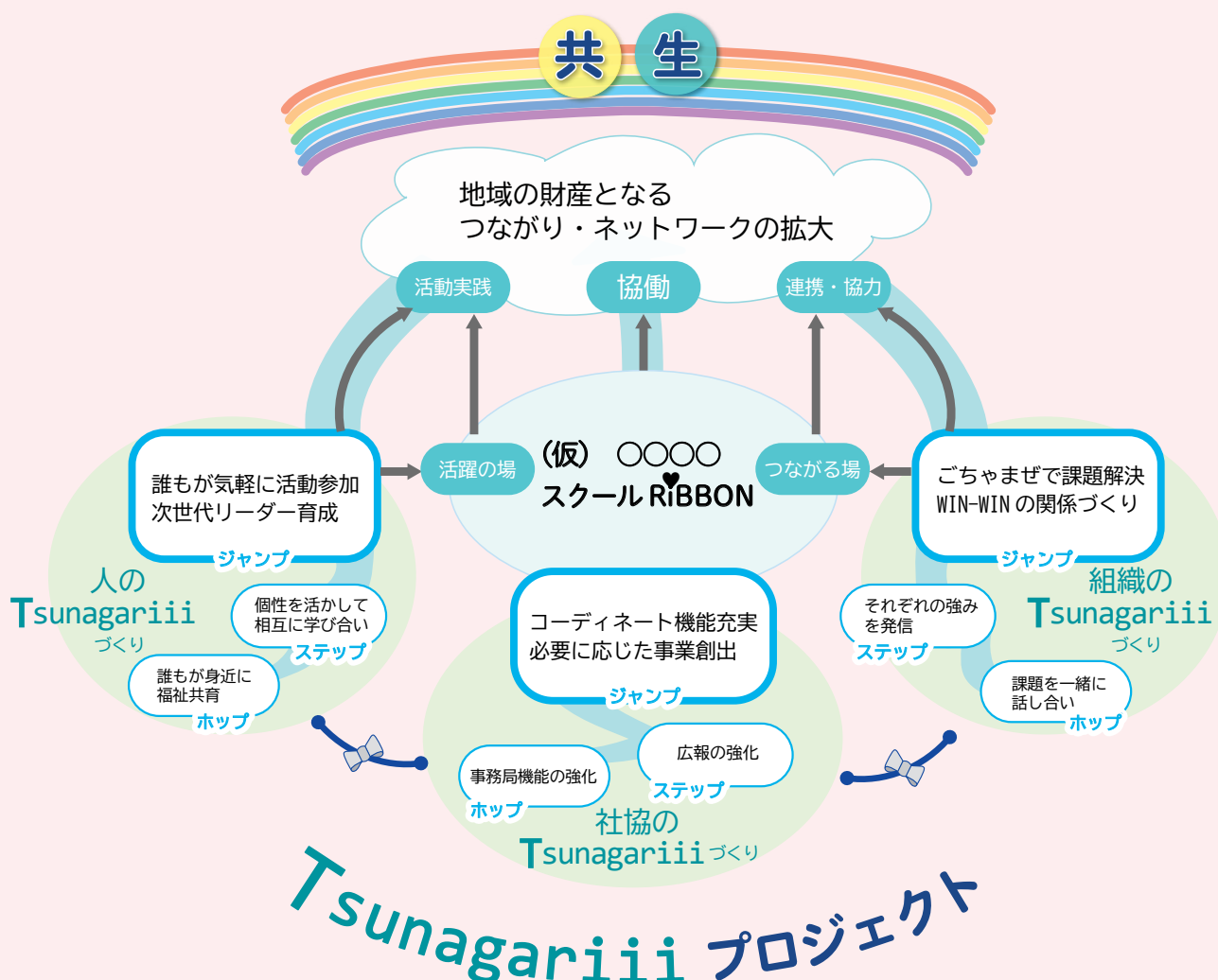
災害に関する取り組み

- 災害時、地域住民と共に被災者に寄り添った支援活動を行っていくことは社協の使命です。日ごろの活動を通して培った地域住民との顔の見える関係や信頼関係を活かし、災害時の支援に積極的に取り組んでいく役割を担っています。
- 災害時には大東市と連携し、被災地・被災者に寄り添った支援を展開する災害ボランティアセンターを立ち上げます。

住民・地域の do

- ♥ 地域や福祉に関する情報に関心を持ち、積極的に収集しましょう。
- ♥ 困りごとの相談窓口などを把握しましょう。
- ♥ 近所や地域で困っている人や支援を必要とする人に気づいたら、できる範囲で見守りや声かけ、相談先等の情報提供を行い、社協、市などに連絡・相談しましょう。
- ♥ 資金調達など地域福祉活動を進めるために必要な情報収集については、社協、市などに相談しましょう。
- ♥ 地域福祉活動のなかで、支援を必要とする人や支援のニーズを把握しましょう。
- ♥ 地域や福祉に関するイベント等に参加しましょう。
- ♥ RIBBON の取り組みに協力しましょう。





(仮) ○○○○スクール RIBBON

人・組織・社協の3つのつながりづくりをより実践的に連関して進める場として、日々の暮らしに関わる新たな取り組みを展開します。誰もが気軽に参加でき、次世代のリーダーなどが運営や講師などとして活躍する場、組織がつながる場となり、地域での活動実践や連携・協力につながるよう、社協がコーディネート・運営します。

[内容イメージ]

- 親子で学ぶマナーセミナー
- みんなで学ぶアンガーマネージメント
- 食べることを楽しもう
- 整理整頓セミナー
- 災害について知ろう など

計画の推進

各取り組みの推進に向けて

“助けられ上手”
の計画に

この計画は、大東市民、大東市で働く人や大東市に関わる人、みんなの計画です。

めまぐるしく社会が変化していく中、“認め合い、支え合い、寄り添う地域”をつくっていくための可能性をみなさんと一緒に考える計画にしたいとの意識で、計画づくりを進めてきました。そして、計画をつくって終わりにするのではなく、この計画を「誰もが主体となって一緒に取り組んでいく」ための道しるべとして、これからの6年間でつながりづくりの具現化に挑戦していきたいと考えています。

RiBBONの取り組みを核に、これまで、地域福祉活動に関わりがなかった方が、何か関わりをもつきっかけになるしかけや、新たなつながりが生まれるしかけづくりなど、誰もが少しずつ参与、参加、参画しながら、より一層挑戦を積み重ねていきたいと考えます。思い描いた姿に向けて取り組みを実行していく中では、見直しが必要なことも出てくると思います。みんなで知恵や力を出し合って取り組んでいけるよう、大東市社会福祉協議会は、みなさんに寄り添って、その土台づくりを進めていきたいと考えます。

それぞれができることから少しずつ、「助け上手 助けられ上手」の協働で、一緒に進めませんか。

みんなで Do (実行) ! We can do it.

3つの目標（ゴール）

次の3つの目標（ゴール）を定めて取り組み、ホップ、ステップ、ジャンプの各取り組みについて点検し、3年め（令和8年度（2026年度））に中間見直しを行い、必要に応じた改善等を実施します。

①タスクゴール

活動の到達目標

- 市内4か所に「RiBBON」を設置
- MUSUBi サポーター登録者数 100名

②プロセスゴール

実施のプロセスで学びを広げ、相互理解を深める

- 「RiBBON」での各取り組みの実践
- 4か所のRiBBONで「〇〇スクールRiBBON」を実施

③リレーションシップゴール

社会や地域において信頼し協働できる関係・つながりを広げる

- 異分野の事業者・団体との協働の取り組み実施

地域福祉活動チェックリスト

人・組織・社協の3つのつながりづくりごとに「住民・地域のY do」を一覧にしました。
一人ひとりが地域福祉活動を進めていく際にご活用ください。

1 ひとのTsunagariiづくり

とく^とり組んだことに☑

ホップ

- RIBBONにおける子どもから大人まで一緒に学べる機会の創出
- 学校との協働による継続的な学びの場づくり など

- ☐ 地域や福祉のことにできるだけ関心を持ちましょう。
- ☐ 地域であいさつ、声かけ、見守り・支え合い活動など、顔見知りの関係づくりを大切にしましょう。
- ☐ 地域の居場所・集いの場、そしてRIBBONに気軽にでかけましょう。

ステップ

- RIBBONにおける参加支援の取り組み
- 校区（地区）福祉委員会など、他地域の活動者との交流による学び合いの実践

- ☐ 学校や地域における福祉共育に参加し、学んだことを地域活動に活かしましょう。
- ☐ 学び合いの場に積極的に参加し、交流しましょう。

ジャンプ

- RIBBONのMUSUBIサポーターなど、誰でも気軽に活動できるシステムづくり
- 次世代リーダー育成プログラムの実践
- 活動のコーディネート

- ☐ 住んでいる地域の校区（地区）福祉委員会の活動に参加しましょう。
- ☐ ボランティアなど「やってみたい」の気持ちを大切に、できることからはじめてみましょう。ボランティアセンターを活用しましょう。

2 組織のTsunagariiづくり

取り組んだことに ☒

ホップ

○スマホ・タブレットの活用促進 など

- ☐ RIBBON の IT 相談などを活用し、活動の情報発信や運営の効率化に、スマホやタブレットなども利用しましょう。

ステップ

○SNSを活用した発信
○イベント等を活用した発信

- ☐ 活動について積極的に情報発信しましょう。

ジャンプ

○強みを生かしあえる WIN-WIN の関係づくり
○補強・補完からソーシャルアクションへ

- ☐ 地域福祉に関する活動を行う団体同士の交流に参加するなど、悩みや課題を共有し、必要に応じて連携しましょう。
- ☐ それぞれの強みを活かして、地域課題の解決に向けて協働しましょう。

3 社協のTsunagariiづくり

取り組んだことに ☒

ホップ

○情報集約・分析、助言機能の強化
○ファシリテーション力の向上

- ☐ 地域や福祉に関する情報に関心をもち、積極的に収集しましょう。
- ☐ 資金調達など地域福祉活動を進めるために必要な情報収集については、社協、市などに相談しましょう。

ステップ

○多様な方法による広報
○募金機能の強化

- ☐ 地域や福祉に関するイベント等に参加しましょう。

ジャンプ

○コーディネート（調整窓口）機能の充実
○必要に応じた事業創出

- ☐ 地域福祉活動のなかで、支援を必要とする人や支援のニーズを把握しましょう。
- ☐ RIBBON の取り組みに協力しましょう。

大東市地域福祉活動計画策定委員会 委員



策定委員会委員長

ふくしと教育の実践研究所 SOLA 新崎 国広

策定委員会副委員長

大東市障害者生活支援センター
(基幹相談支援センター)

松井 昭憲

大東市基幹型地域包括支援センター

北川 美由紀

大東市コミュニティー

ソーシャルワーカー協議会

上田 美里

【事務局】 大東市社会福祉協議会

大東市ボランティア団体連絡会

学識経験者

学識経験者

学識経験者

大東市福祉・子ども部福祉政策課

大東市福祉・子ども部こども家庭室

子ども支援グループ

廣中 征子

井上 鈴佳

槇山 智雄

船津 由起子

堀中 裕貴

平岡 健一郎

稲田 圭郁

村尾 空見子

佐々木 志奈



大東市社会福祉協議会職員一同とマスコットキャラクター「ボラーナ」
(児童クラブの児童が作成したエコ絵画前にて)



発行：

社会福祉法人 大東市社会福祉協議会

大東市新町13-13

電話 072-874-1082

FAX 072-874-1828